

# 西ドイツの開業医の所得

健康保険組合連合会 石本忠義

西ドイツでは1959年以降定期的の開業医等自由業の「費用構造調査」が行われている。これまでに1959年、1963年、1967年、1971年、1975年と4年おきに調査が行われてきている。この調査は、1959年5月12日の「費用構造統計に関する法律」に基づくものである。調査の目的は、生産費用の構成と額を明らかにすることである。調査の結果は、国家経済・財政および社会政策のために広く活用される。

医師の場合、調査は統一されており、開業している場合の費用（人件費、賃借料、負債利子、減価償却など）と収入について行われる。この調査は、抽出、任意調査として、連邦統計局が州医師会の協力を得て行う。抽出率は、1975年の調査の場合4.1%である。1975年の調査結果はつぎのとおりである。

## 収入の状況

2,281の診療所の収入の平均額は、約269,000マルク（約3,228万円）で、1971年の平均額176,000マルク（約2,112万円）に比べ52.8%（年平均13.2%）増加している。1967年の調査では、2～3万マルクの収入の開業医もかなりいたが、1971年と1975年の調査では3～5万マルクの収入が最も低く、1971年では約525,000マルク（約6,300万円）が最高で、1975年では約1,260,000マルク（約1億5,120万円）が最高である。1967年の最高が30～40万マルクであったことからみると、ずいぶん収入の幅が広がったことになる。

表1は、収入階層別の分布を示したものであるが、これによると、50万マルクまでのものが全体の約93%を占めている。放射線科医は収入額が高く、25万マルク以上で、100万マルク以上のものもある。その他の科はほとんど50万マルクまでで、それ以上のものは少ない。一般医は収入額の格差が大きい。

表1 収入階層別診療所数分布

フランス労働者の依頼で調査機関SOF

収入階層	計	一般医	内科医	産科婦人医	小児科医	眼科医	耳鼻咽喉科医	整形外科医	外科医	皮膚科医	放射線科医	泌尿科医	神経科医	泌尿器科医	歯科医	その他
30-50,000	31	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50-80,000	75	51	-	-	7	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
80-100,000	63	34	9	7	17	-	9	-	10	7	-	-	-	-	-	-
100-120,000	92	49	12	13	22	-	14	9	-	-	-	9	8	-	-	-
120-150,000	172	102	21	13	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
150-200,000	375	201	28	26	34	18	19	-	7	21	-	-	9	-	-	-
200-250,000	395	201	30	36	27	21	25	17	16	-	-	-	11	10	17	-
250-300,000	319	157	44	22	22	22	7	-	7	12	-	12	11	-	-	-
300-400,000	426	151	76	30	-	18	33	16	25	15	15	-	12	18	30	-
400-500,000	190	57	56	14	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	17	-
500-600,000	67	-	-	-	-	9	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-
600-700,000	37	16	27	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-
700-800,000	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
800-1,000,000	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-
1,000,000以上	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
計	2,281	1,039	297	154	140	112	81	76	63	55	35	20	40	28	81	-

（資料） Die Krankenversicherung, November 1977, S. 300～306.

## 費用の状況

1975年における収入に対する費用の割合は、平均で42～44%である。1967年の33.7%、1971年の35.2%に比べると費用の割合はかなり上昇したことになる。費用の中では人件費のウエイトが最も大きい。収入に対する人件費の割合は平均で18～20%である。この割合も1971年の15%に比べてやや高くなっている。

## 純収益の状況

費用控除後の純収益の状況は表2のとおりである。これによると、1診療所当たりの純収益は最低が24,000マルク（約288万円）、最高が674,000マルク（約8,088万円）である。この純収益からさらに社会保険料等が徴収されるので、課税所得はもっと少なくなる。表2には収入に対する社会保険料等の

割合も示されているが、低い収入階層では相当重い負担となっている。各科別の開業医1人当たりの純収益の平均額は表3のとおりである。これによると、皮ふ科医と放射線科医の純収益の伸びが大きい。平均純収益は149,455 マルク（約1,793万円）で、1971～75年において年平均8.2%上昇したことになる。

なお、この上昇率は1976年と1977年の診療報酬引上げ交渉の際の重要な基礎データとなったようである。

表2 収入階層別費用の割合、純収益、社会保険料等

(単位：マルク、%)

収入階層	収入に対する総費用の割合	診療所当たり収益	開業医1人当たり社会保険料等	純収益に対する社会保険料の割合
30 - 50,000	41.2	24,060	6,281	26.1
50 - 80,000	40.1	39,640	8,648	21.8
80 - 100,000	41.7	53,541	9,931	18.5
100 - 120,000	46.7	58,581	13,026	22.2
120 - 150,000	44.9	73,886	14,915	20.2
150 - 200,000	42.5	101,382	17,355	17.1
200 - 250,000	42.5	129,185	19,738	15.5
250 - 300,000	41.4	160,708	20,175	12.9
300 - 400,000	41.6	201,982	21,570	11.4
400 - 500,000	42.3	253,940	24,055	10.0
500 - 600,000	43.8	304,980	25,613	9.1
600 - 700,000	45.5	350,452	23,257	7.5
700 - 800,000	45.2	417,375	22,091	6.7
800 - 1,000,000	48.0	448,694	31,563	7.0
1,000,000 以上	46.5	674,157	23,312	6.4

(資料) 表1と同じ

表3 診療科別開業医1人当たり純収益の推移

(単位：マルク、%)

	1967年	1971年	年平均増加率	1975年	年平均増加率
一般医	71,199	101,192	+ 10.5	135,132	+ 8.4
内科医	89,059	135,307	+ 12.9	181,142	+ 8.4
産婦人科医	85,128	115,641	+ 9.0	160,078	+ 9.6
小児科医	63,441	91,330	+ 11.0	116,355	+ 6.8
眼科医	107,226	144,063	+ 8.6	186,333	+ 7.3
耳鼻咽喉科医	85,412	119,014	+ 9.8	130,982	+ 2.5
整形外科医	108,317	137,384	+ 6.7	180,988	+ 7.8
外科医	116,986	118,886	+ 0.5	131,866	+ 2.7
皮ふ科医	63,183	74,067	+ 4.3	147,061	+ 24.6
放射線科医	123,275	174,422	+ 10.3	269,228	+ 13.5
肺・臓科医	60,653	108,392	+ 19.7	122,014	+ 3.1
神経科医	—	103,071	—	144,171	+ 10.0
泌尿器科医	115,741	—	—	173,548	+ 6.2
グループ診療医	—	—	—	137,644	—
平均	78,832	112,338	+ 10.6	149,455	+ 8.2

(資料) 表1と同じ